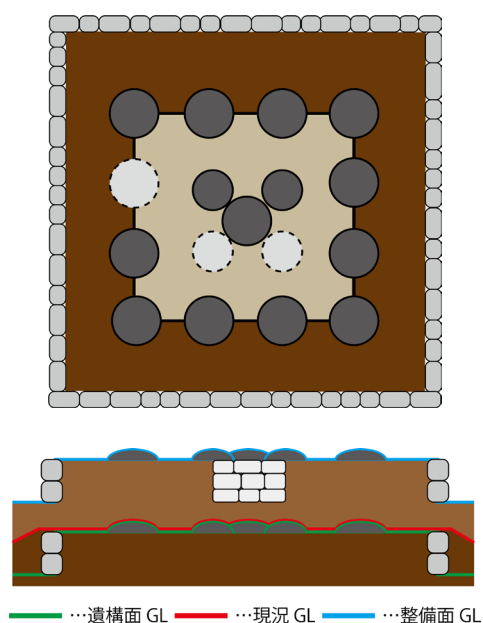


1 遺構表現方法別案

(1) 塔跡

【案①】

整備方法	検討事項	
『盛土により塔跡の基壇を完全復元する案』 基壇範囲：土系舗装 建物範囲：土系舗装 表出礎石：盛土により保存 復元礎石：塔跡等と同様の石材を用いて表現 基壇外装：石組基壇であることを塔跡等と同様の石材を用いて表現	メリット	・ 国分寺の最重要ともいえる施設である塔の基壇規模をみせることができる ・ 礎石を保存できる ・ 除草コストが抑えられる
	デメリット	・ 現在表出している礎石が見えなくなってしまう ・ 盛土と石材の購入に伴うため整備費用が高くなる ・ 未確認部分について復元的に表示することとなるため、真実性という観点から推奨されない ・ 舗装や設置した石のメンテナンスと修繕が必要 ・ 雨水排水に留意する必要がある ・ 法面下の排水措置が必要（断面）



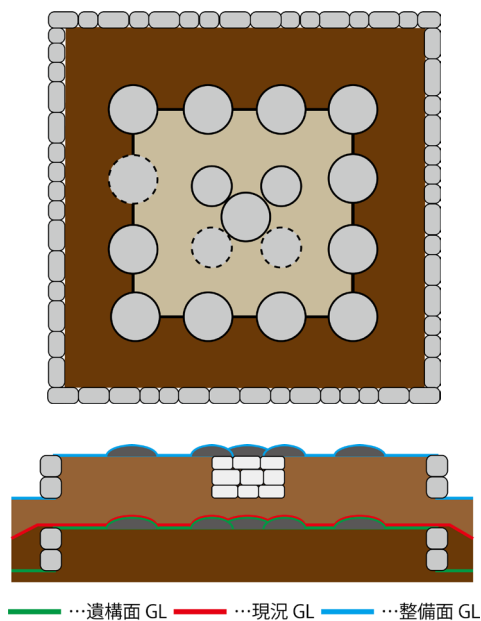
図_案①模式図



写真_整備イメージ

【案②】

整備方法	検討事項	
『盛土により塔跡の礎石以外を復元する案』 基壇範囲：土系舗装 建物範囲：土系舗装 表出礎石：盛土により保存 復元礎石：円形のマーカーを設置して表現 法面の整備：土系舗装 基壇外装：石組基壇であることを自然素材以外の素材を用いて表現	メリット	・国分寺の最重要ともいえる施設である塔の基壇規模をみせることができる ・礎石を保存できる ・案①と比較して安価に礎石建物であることを伝えられる ・除草コストが抑えられる
	デメリット	・現在表出している礎石が見えなくなってしまう ・舗装や設置したマーカーの維持管理と修繕が必要 ・雨水排水に留意する必要がある ・法面下の排水措置が必要（断面）



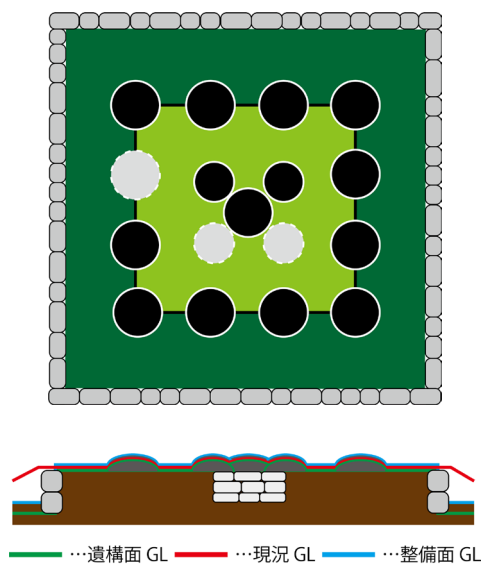
図_案②模式図



写真_整備イメージ

【案③】

整備方法	検討事項	
『表出している礎石を見せつつ、塔跡の基壇一部を復元する案』 案③の植栽バージョン 基壇範囲：植栽 建物範囲：植栽 表出礎石：そのまま見せる 復元礎石：塔跡等と同様の石材を用いて表現もしくは円形マーカー 基壇外装：石組基壇であることを塔跡等と同様の石材もしくは自然素材以外の素材を用いて表現	メリット	・本物の礎石を見せられることから、史跡の理解につながりやすい ・基壇上部の平面的な規模を礎石と一体に感じることができる ・講堂跡も同様の整備が可能 ・雨水が浸透するため、土系舗装より基壇上面の雨水排水を心配する必要がない
	デメリット	・石材を購入する必要があり、表出している礎石との明確な区別が必要となる ・基壇上部の平面的な規模は感じられるが、基壇高さの規模を表現しきれない ・除草コストが継続的にかかる ・表出させる礎石の保存処理が必要



図_案③模式図



写真_整備イメージ

ア 石製露盤

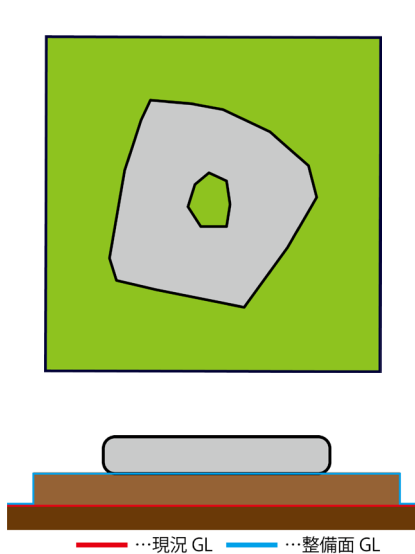
石製露盤については、塔跡南に移設し展示を行う。

【案①】

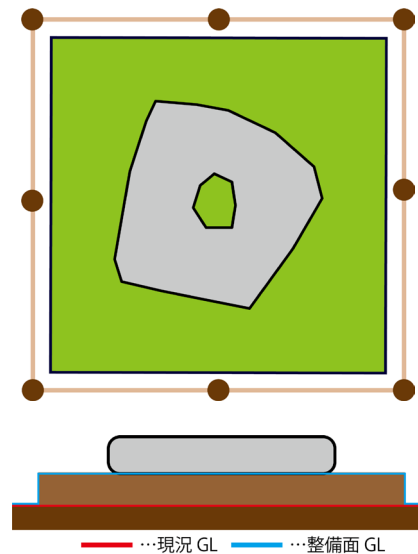
整備方法	検討事項	
『芝生上に設置し柵を設けない案』 舗装：なし 柵：なし	メリット	・ 舗装ではないため修繕する必要がない ・ 柵を設けないことで、より近くで体感することができる
	デメリット	・ 露盤の維持管理に留意が必要 ・ 露盤周辺の除草が必要 ・ 柵を設けないことで、人的なき損の恐れがある

【案②】

整備方法	検討事項	
『芝生上に設置し柵を設ける案』 舗装：なし 柵：あり	メリット	・ 舗装ではないため修繕する必要がない ・ 柵を設けることで、人的なき損を一定程度防ぐことができる
	デメリット	・ 露盤の維持管理に留意が必要 ・ 露盤周辺の除草が必要 ・ 柵のメンテナンスが必要



図_案①模式図



図_案②模式図

【案③】

整備方法	検討事項	
『舗装上に設置し柵を設ける案』 舗装：土系舗装 柵：あり	メリット	・ 認識しやすい ・ 柵を設けることで、人的なき損を一定程度防ぐことができる
	デメリット	・ 舗装を行うことにより、遺構表現と誤認される恐れがある ・ 舗装の修繕が必要 ・ 柵のメンテナンスが必要

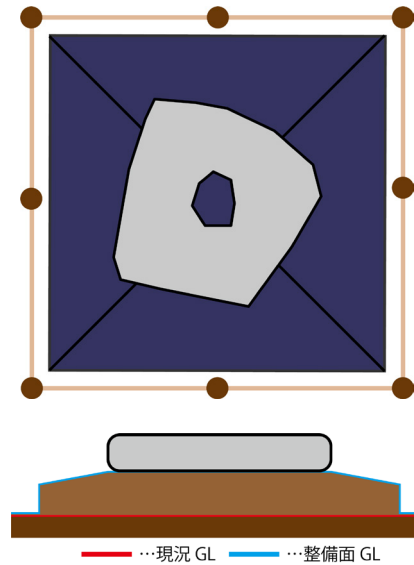


図 案③模式図

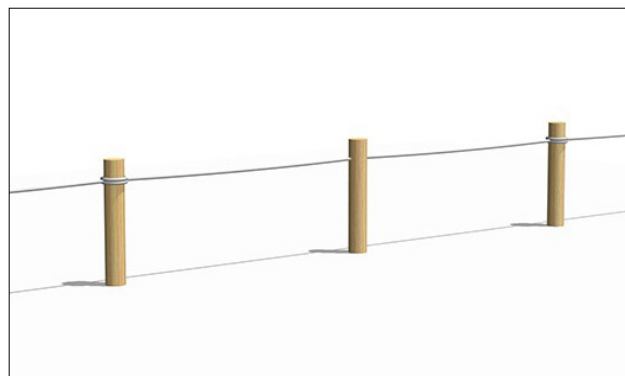


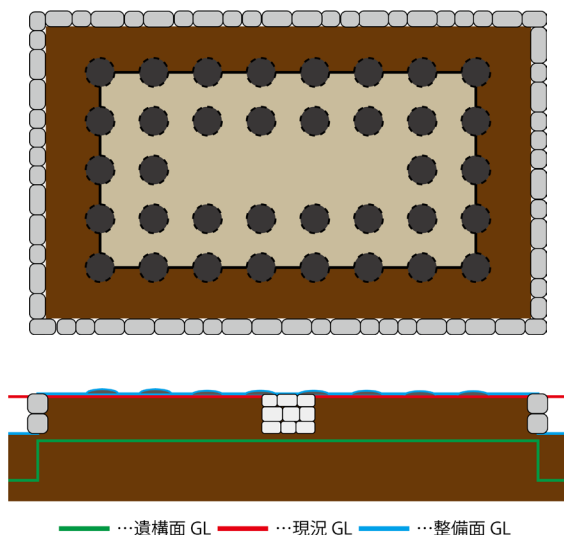
写真 柵（参考事例）

イ 金堂跡

全ての案において、見学用の階段として、北側に暫定整備時の階段を流用することとする。

【案①】

整備方法	検討事項	
『金堂跡の基壇を完全復元する案』 基壇範囲：土系舗装 建物範囲：土系舗装 復元礎石：講堂跡等と同様の石材を用いて表現 基壇外装：石組基壇であることを講堂跡等と同様の石材を用いて表現	メリット	- 礎石建物の跡であることを忠実に再現できる - 講堂跡と並んだ時に統一感のある景観となる - 除草コストが抑えられる
	デメリット	- 石材の購入が伴うため整備費用が高くなる - 費用は高いが、建物について伝えることが出来なくなるため、費用対効果が薄い - 実際には確認されていないものを復元的に表示することとなるため、真実性という観点から推奨されない - 舗装や設置した石のメンテナンスと修繕が必要 - 凹凸ができるため活用しにくい - 法面下の排水措置が必要（断面）



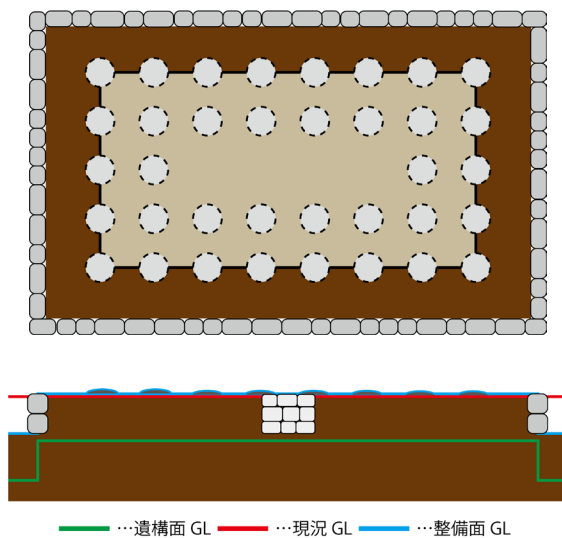
図_案①模式図



写真_整備イメージ

【案②】

整備方法	検討事項	
『礎石以外を復元する案』 基壇範囲：土系舗装 建物範囲：土系舗装 復元礎石：円形のマーカを設置して表現 基壇外装：石組基壇であることを自然素材以外の素材を用いて表現	メリット	・案①と比較して安価に礎石建物であることを伝えられる ・凹凸がないためステージ的に活用することが可能 ・除草コストが抑えられる
	デメリット	・実際には確認されていないものを復元的に表示することとなるため、真実性という観点から推奨されない ・舗装や設置したマーカの維持管理と修繕が必要 ・法面下の排水措置が必要（断面）



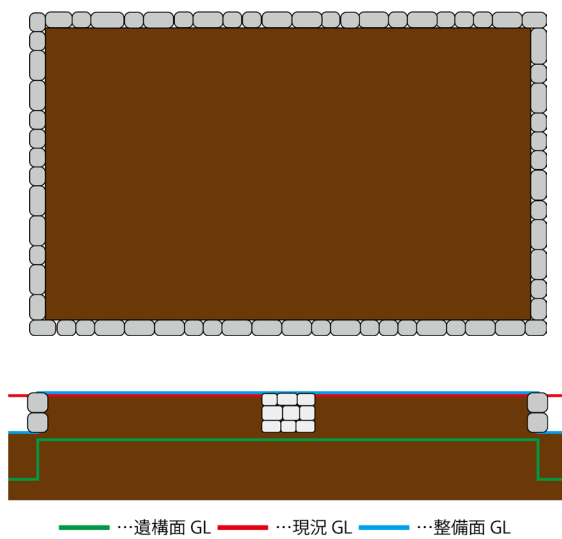
図_案②模式図



写真_整備イメージ

【案③】

整備方法	検討事項	
『基壇範囲のみ表示する案（舗装）』 基壇範囲：土系舗装 建物範囲：表現しない 復元礎石：表現しない 基壇外装：石組基壇であることを講堂跡等と同様の石材もしくは自然素材以外の素材を用いて表現	メリット	・舗装のみであるため整備費を抑えられる ・除草コストが抑えられる ・低メンテナンス性 ・凹凸がないため活用しやすい
	デメリット	・解説板やパンフレット等で、建物跡があったことを伝える必要がある ・講堂跡と比べた時に統一的な景観を保ちにくい ・舗装の修繕が必要 ・法面下の排水措置が必要（断面）



図_案③模式図



写真_整備イメージ

【案④】

整備方法	検討事項	
『基壇範囲のみ表示する案（植栽）』 基壇範囲：盛土上に植栽 建物範囲：表現しない 復元礎石：表現しない 基壇外装：石組基壇であることを講堂跡等と同様の石材もしくは自然素材以外の素材を用いて表現	メリット	・舗装ではないため修繕する必要がない
	デメリット	・定期的な除草が必要 ・盛土と芝張りのためイニシャルコストがかかる ・根付かない場合、再度整備する必要がある ・解説板やパンフレット等で、建物跡があったことを伝える必要がある ・講堂跡と比べた時に統一的な景観を保ちにくい ・活用しにくい

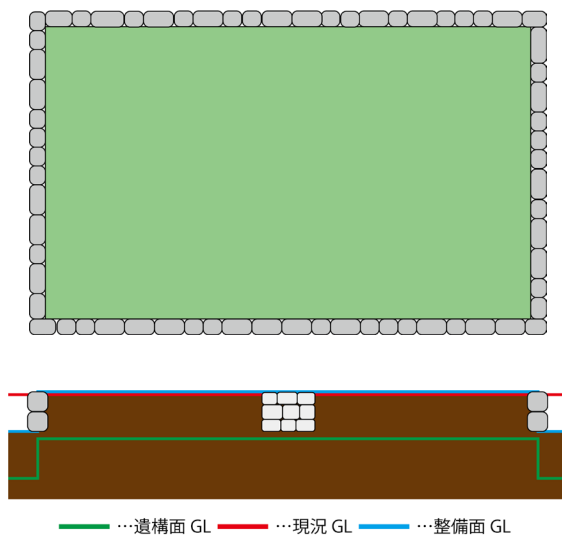


図 案④模式図

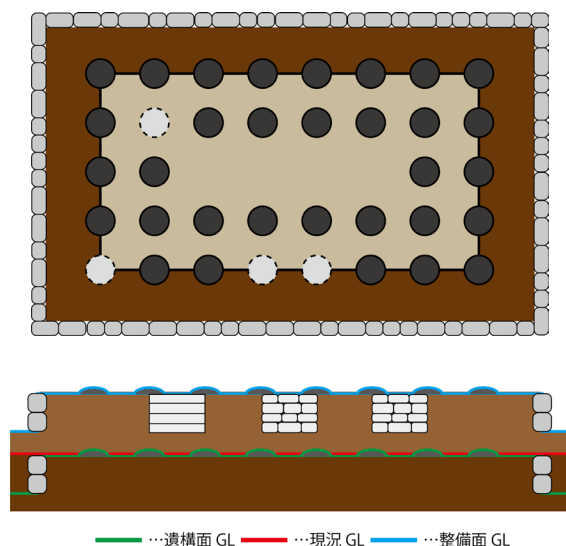


写真 整備イメージ

ウ 講堂跡

【案①】

整備方法	検討事項	
『盛土により講堂跡の基壇を完全復元する案』 基壇範囲：土系舗装 建物範囲：土系舗装 表出礎石：盛土により保存 復元礎石：講堂跡等と同様の石材を用いて表現 基壇外装：石組基壇であることを講堂跡等と同様の石材を用いて表現	メリット	・ 講堂跡本来の基壇規模をみせることができる ・ 礎石を保存できる ・ 除草コストが抑えられる
	デメリット	・ 現在表出している礎石が見えなくなってしまう ・ 盛土と石材の購入に伴うため整備費用が高くなる ・ 未確認部分について復元的に表示することとなるため、真実性という観点から推奨されない ・ 北側道路との高低差がさらに大きくなり、利用者の安全対策をする必要がある ・ 舗装や設置した石のメンテナンスと修繕が必要 ・ 雨水排水に留意する必要がある ・ 法面下の排水措置が必要（断面）



図_案①模式図



写真_整備イメージ

【案②】

整備方法	検討事項	
『盛土により講堂跡の礎石以外を復元する案』 基壇範囲：土系舗装 建物範囲：土系舗装 表出礎石：盛土により保存 復元礎石：円形のマーカーを設置して表現 基壇外装：石組基壇であることを自然素材以外の素材を用いて表現	メリット	・ 講堂跡本来の基壇規模をみせることができる ・ 礎石を保存できる ・ 案①と比較して安価に礎石建物であることを伝えられる ・ 除草コストが抑えられる
	デメリット	・ 未確認部分について復元的に表示することとなるため、真実性という観点から推奨されない ・ 舗装や設置したマーカーの維持管理と修繕が必要 ・ 雨水排水に留意する必要がある ・ 法面下の排水措置が必要（断面）

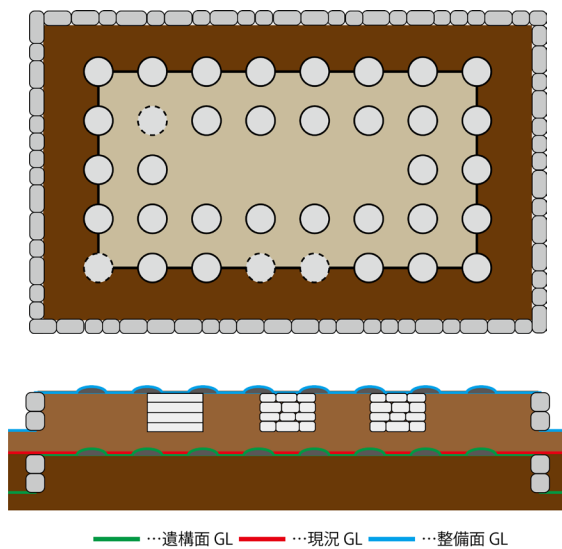


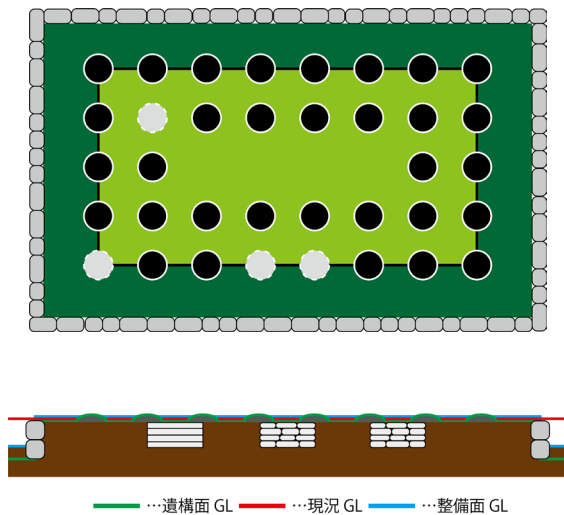
図 案②模式図



写真 整備イメージ

【案③】

整備方法	検討事項	
『表出している礎石を見せつつ、講堂跡の基壇一部を復元する案』 ③案の植栽バージョン 基壇範囲：植栽 建物範囲：植栽 表出礎石：そのまま見せる 復元礎石：講堂跡等と同様の石材を用いて表現もしくは円形マーカー 基壇外装：石組基壇であることを講堂跡等と同様の石材もしくは自然素材以外の素材を用いて表現	メリット	・本物の礎石を見せられることから、史跡の理解につながりやすい ・基壇上部の平面的な規模を礎石と一体に感じることができる ・塔跡も同様の整備が可能 ・雨水が浸透するため、土系舗装より基壇上面の雨水排水を心配する必要がない
	デメリット	・石材を購入する場合は整備費が高くなり、表出している礎石との明確な区別が必要となる ・基壇上部の平面的な規模は感じられるが、基壇高さの規模を表現しきれない ・除草コストが継続的にかかる ・表出させる礎石の保存処理が必要



図_案③模式図



写真_整備イメージ

工 回廊跡・中門跡

【案①】

整備方法	検討事項	
『遺構範囲表示し、礎石を復元する案（舗装）』 遺構範囲：土系舗装 遺構想定範囲：土系舗装（上記と色を変える） 確認礎石：塔跡等と同様の石材を用いて表現 復元礎石：確認礎石とは別の石材を用いて表現 中門跡：土系舗装 ※南東側を特に積極的に整備し、確認された礎石などを表現する	メリット	・礎石建物の跡であることを忠実に再現できる ・金堂跡と並んだ時に統一感のある景観となる ・除草コストが抑えられる
	デメリット	・石材の購入が伴うため整備費用が高くなる ・費用は高いが、建物について伝えることが出来なくなるため、費用対効果が薄い ・実際には確認されていないものを復元的に表示することとなるため、真実性という観点から推奨されない ・舗装や設置した石のメンテナンスと修繕が必要 ・凹凸ができるため移動しにくい

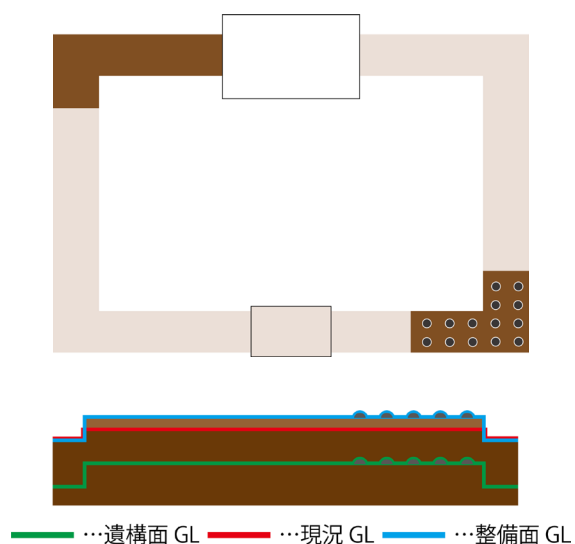


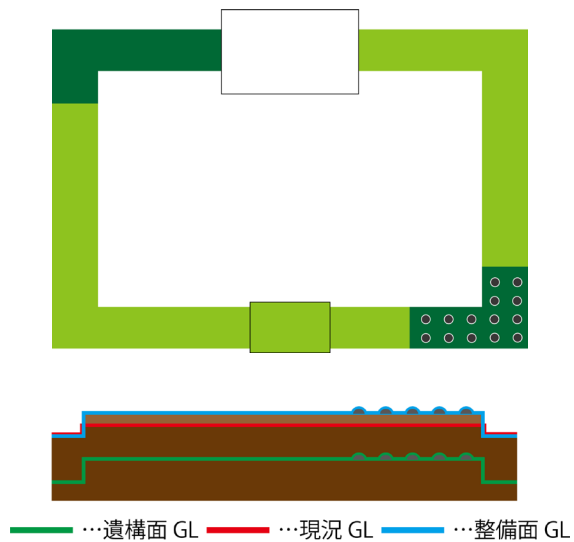
図 案①模式図



写真 整備イメージ

【案②】

整備方法	検討事項	
『遺構範囲表示し、礎石を復元する案（植栽）』 遺構範囲：植栽 遺構想定範囲：植栽（上記と種類などを変える） 確認礎石：塔跡等と同様の石材を用いて表現 復元礎石：確認礎石とは別の石材を用いて表現 中門跡：植栽 ※南東側特に積極的に整備し、確認された礎石などを表現する	メリット	・舗装ではないため修繕する必要がない ・景観的に周囲となじみやすい
	デメリット	・定期的な除草が必要のため、ランニングコストが舗装よりかかる ・根付かない場合、再度整備する必要がある ・解説板やパンフレット等で、建物跡があったことを伝える必要がある ・設置した石のメンテナンスと修繕が必要 ・植栽と礎石の凹凸のため移動しにくい



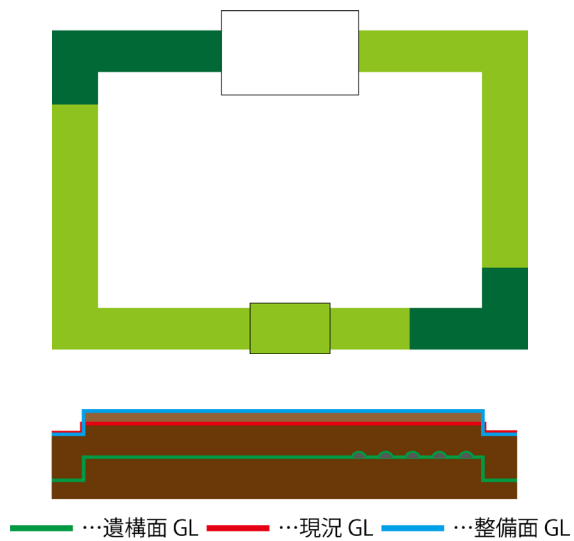
図_案②模式図



写真_整備イメージ

【案③】

整備方法	検討事項	
『遺構範囲表示し、礎石を復元する案（植栽）』 遺構範囲：植栽 遺構想定範囲：植栽（上記と種類などを変える） 礎石：表現しない 中門跡：植栽	メリット	・ 舗装ではないため修繕する必要がない ・ 景観的に周囲となじみやすい
	デメリット	・ 定期的な除草が必要のため、ランニングコストが舗装よりかかる ・ 根付かない場合、再度整備する必要がある ・ 解説板やパンフレット等で、建物跡があったことを伝える必要がある ・ 植栽により移動困難な方が移動しにくい



図_案③模式図

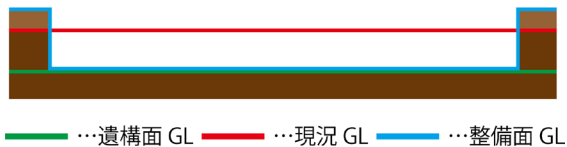
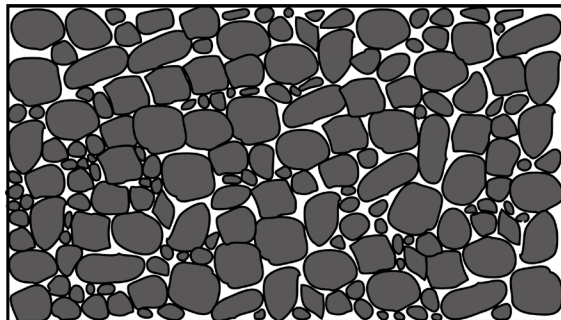


写真_整備イメージ

オ 石敷

【案①】

整備方法	検討事項	
『覆屋を設置し、遺構を表出させる案』	メリット	・ 本物の石敷を見ることができる ・ 石の国分寺を本物で体感することができる
	デメリット	・ 遺構保存の観点から推奨されない ・ 維持管理と修繕が必要 ・ 雨水排水に留意する必要がある ・ 石敷範囲を誤認される可能性がある ・ 障害物ができる



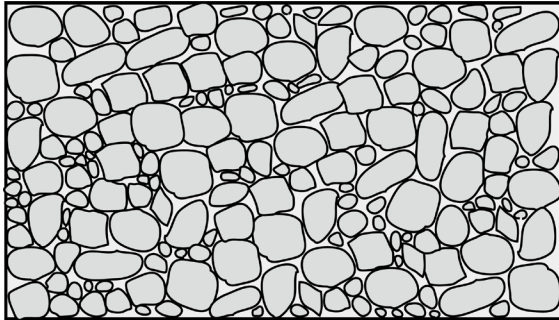
図_案①模式図



写真_整備イメージ

【案②】

整備方法	検討事項	
『盛土により保護し、復元する案』 復元礎石：陶板タイル、写真を用いて表現	メリット	・石敷を保存できる ・遺構の存在を示しやすい ・案②ほどではないが、疑似的に石の国分寺を体感することができる ・メンテナンス性が高い
	デメリット	・衝撃等により破損する可能性がある ・他の整備箇所との調和に留意する必要がある ・遺構の詳細を伝えきれない可能性があり、補助的な説明が必要



— 遺構面 GL — 現況 GL — 整備面 GL

図_案②模式図



写真_整備イメージ

【案③】

整備方法	検討事項	
『盛土により保護し、植栽で表現する案』	メリット	・石敷を保存できる ・整備費が安い
	デメリット	・除草が必要 ・遺構の詳細説明が必要



— 遺構面 GL — 現況 GL — 整備面 GL

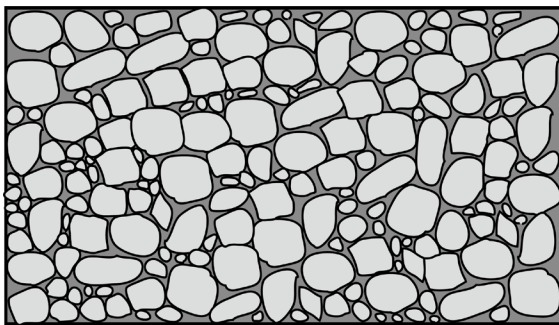
図_案③模式図



写真_整備イメージ

【案④】

整備方法	検討事項	
『盛土により保護し、復元する案』 復元礎石：ストリートプリントを用いて表現	メリット	・石敷を保存できる ・遺構の存在を示しやすい ・案②ほどではないが、疑似的に石の国分寺を体感することができる ・メンテナンス性が高い ・比較的耐久性が高い
	デメリット	・他の整備箇所との調和に留意する必要がある ・遺構の詳細を伝えきれない可能性があり、補助的な説明が必要



— 遺構面 GL — 現況 GL — 整備面 GL

図_案④模式図



写真_整備イメージ